令和６年６月２０日

きらきらＥｙｅランド
ＪＡ庄内みどり

安全･安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第７号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

作溝・中干し時期になっています！ 速やかな作業開始が吉！！

６月１３日発表の仙台管区気象台１か月予報によると、気温は高く、降水量、日照時間は平年並の予報です。今年は、植え傷みで生育量の少ない圃場が見受けられましたが、好天により生育は回復傾向にあります。

各品種の目標茎数を確保した圃場から遅れずに作溝・中干しを実施し、根を充実させ、適切な生育調節で適期に適量の穂肥ができる稲姿に仕上げましょう。収量・品質・食味の３拍子揃った米づくりには、しっかり穂肥ができることが重要です。

例年この時期は梅雨と重なり、中干しが不十分な圃場が見受けられますので、**遅れずに中干しに入りましょう。**

なお、６月１０日現在の生育診断圃の生育は、表１の通りとなっています。

技、其の一　稲の生育量を見て作溝･中干しを！

作溝・中干しは、土壌中のアンモニア態窒素を減少させ、無効分げつや節間伸長の抑制と根の健全化が図られることで、登熟及び品質向上につながります。また、収穫期までの効率的な水管理を行ううえでも重要な作業です。

有効茎数の８０％を確保した圃場では、落水して作溝・中干しを行いましょう。作溝・中干し開始時期の目安は８葉期の有効分げつ決定期です。

圃場により生育差がありますが、目標茎数に達した圃場から速やかに中干しを実施しましょう（６月２０日頃が開始目安）。中干しが遅れると葉色が低下せず籾数過剰・登熟不良につながるため遅れずに実施しましょう。

中干し終了後は、走り水等で徐々に根を慣らしながら間断潅水に移行しましょう。
但し、気温１８℃以下の低温時や強風時には直ちに深水とし、稲体を保護しましょう。

◎品種別、土壌別、作溝・中干しの開始目安（**有効茎数の８割**）

品　　種	１株当り茎数（７０株/坪の場合）	作溝の間隔		中干しの程度
		壌土	埴土	
はえぬき	２１本	４～５ｍ	２～３ｍ	小ひびの入る程度（白乾亀裂はさせない）
つや姫	１８本			
雪若丸	２２本			

ケイ酸資材の施用は、高温対策に有効です！積極的に散布を行ないましょう！
※ＫＳＫ２８の施用時期：中干し後の入水時（出穂 35～30 日前）　1.4 kg／10a

表１．現在の生育状況（６月１０日現在の生育診断圃データ）　（ ）内は平年対比

品　種	草　丈	茎　数	葉　齢	葉色(SPAD)
はえぬき	28.7 cm（ 93）	329 本/㎡（ 87）	6.5（−0.4）	34.0（−5.2）
つや姫	30.0 cm（ 95）	277 本/㎡（ 109）	6.4（±0.0）	32.9（−3.8）
雪若丸	25.6 cm（ 94）	333 本/㎡（ 105）	7.5（+0.6）	39.6（−1.5）

表２．６月２０日時点の各品種別指標値（指標値を目安に作業を進めましょう。）

はえぬき･･･草丈33.0cm　茎数500本／㎡　葉数8.3　葉色40.0
つ　や　姫･･･草丈35.0cm　茎数460本／㎡　葉数8.3　葉色39.0
雪　若　丸･･･草丈34.0cm　茎数520本／㎡　葉数8.5　葉色44.0
ふくひびき･･･草丈38.0cm　茎数400本／㎡　葉数8.0　葉色41.0

飼料用米「ふくひびき」については、実需先より数量確保を望まれています。多収を目指してがんばりましょう！

技、其の二　こまめな圃場管理で病害虫を防除！

◎斑点米カメムシ類

カメムシの発生量は**やや多い**と予想されています。生息密度の低減を図るため、畦畔、灌排水路･農道法面など、こまめな草刈りを徹底しましょう。圃場内においてはヒエ・ホタルイ等の残草の除去と防除を徹底し、発生密度の低減に努め斑点米による落等を防ぎましょう。

暑い中の作業お疲れ様です。熱中症には十分注意しましょう。

◎葉いもち

圃場に放置している補植苗は、いもちの発生源になりえますので、直ちに処分しましょう。特に山間部や風のよどむ場所、**乾田Ｖ溝直播栽培での肥料重複箇所**等、生育量の多いところでは薬剤散布が遅れないように注意して下さい。

◎紋 枯 病

例年、多発する圃場では、モンガリット粒剤等の使用も検討しましょう。

※特別栽培米生産者の皆様へ

特別栽培米生産圃場では、計画された薬剤以外は使用できませんので、圃場をよく見回り、病害虫の発生が確認されたら、必ず各営農課へご相談下さい。

●残留農薬等のポジティブリスト制度が施行されております。
ドリフトが原因で農産物が流通（出荷・販売）不可となった場合、農薬散布者の責任となります。防除の際は周辺作物に飛散しないよう風速･風向に注意しましょう。

無人ヘリ防除が始まります。各種圃場旗を早急に設置しましょう。

大豆栽培のポイントは中耕培土

播種作業は一部で遅れが見られるものの概ね順調に進み、出芽揃いは比較的良好です。今後、梅雨の影響で雨の日が多くなると、排水不良田では湿害により生育が停滞し、雑草が発生して品質や収量に大きく影響を及ぼします。中耕培土は有効な除草方法であると同時に、有効な湿害対策でもあります。晴れ間を見て遅れずに作業を実施しましょう。

また、圃場を見回りネキリムシの被害が見られる場合は、「ネキリエースＫ」を３kg/10a(使用時期:大豆本葉２葉期迄)で防除しましょう。

１．本葉３葉期頃の中耕培土（１回目）６月１５日～２５日頃（適期播種の場合）

①中耕は、早め早めの実施が効果的です。

②除草剤の効果が切れて、雑草の発生が目立ってきたら、遅れずに実施しましょう。

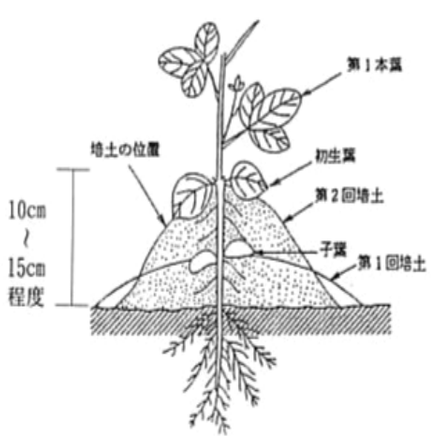
２．本葉６～７葉期頃の中耕培土（２回目）
７月５日～２０日頃

①尿素を現物１０a当り１０ｋｇ
（Ｎ成分4.6ｋｇ）を施肥しましょう。

注）基肥に一発肥料を施肥した場合は、①の追肥は不要です。

②追肥後、初生葉が隠れる位置まで、しっかり培土しましょう。

③ヒエ等のイネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)には、ワンサイドＰ乳剤またはポルトフロアブルを茎葉散布、または全面散布しましょう。また、広葉雑草の発生が見られたら遅れずに大豆バサグラン液剤を雑草に散布しましょう。



培土の方法

（除草剤を散布する際は、隣接する作物への飛散に注意しましょう！）

無人ヘリコプターによる一斉防除が始まります!

今年も無人ヘリコプターによる一斉防除が６月下旬から始まります。

地域ごとに詳しい防除日程等をお知らせしますが、ご迷惑をおかけしないよう万全の対策を講じてまいりますので、何卒ご理解お願い申し上げます。

尚、お子様のいるご家庭におかれましては、無人ヘリコプターには絶対近づかないようお話しいただければ幸いです。

また、近年ドローンを使用して薬剤散布をする生産者が散見されますが、安全な無人ヘリ防除作業をするために、ドローンを使用する方は最寄りの営農課までご連絡下さるようお願いします。

JA庄内みどり無人ヘリ防除連絡協議会

つや姫・雪若丸情報コーナー

初期生育はバラツキ大きい！
茎数を確認して遅れずに作溝・中干しを

○つや姫の目標穂数は、440本/㎡、坪70株植えで1株20～21本です。雪若丸の目標穂数は、580本/㎡、坪70株植えで1株26～27本です。

○各圃場の株あたり茎数を確認し、目標茎数を確保したら(つや姫では70株植えで18本/株、雪若丸では70株植えで22本/株)、遅れずに作溝・中干しで根の充実を図りましょう。

《園芸情報》
薄皮ミニトマト「ピンキー」の管理について

今年度も４月よりミニトマトの栽培が始まりました。下記のポイントに注意して栽培を行いましょう。目標収量は夏秋栽培で10ａあたり４ｔです。

1. **着果処理**

着果促進のためブロアーなどの振動受粉、高温期にはトマトトーンを花房に散布し着果させます。トマトトーンは生長点への散布や高温時に散布すると薬害を生じる恐れがあるため、希釈倍率に注意するとともに、生長点にかからないように注意し、気温の低い早朝もしくは夕方に行うようにしましょう。使用回数は１花につき１回です。

2. **灌水・換気**

急激に多量の灌水を行うと裂果の原因となるため、灌水は少量多回数で行うことを心掛け、土壌水分を変動させないようにすることが大切です。また、ハウス周辺に明渠を掘るなどし、雨天時にハウス内浸水が起きないようにしましょう。

病害発生防止のため、天候が雨でも１日１回は多湿回避の為にハウス内の換気を行ってください。

3. **追肥**

第２花房開花が追肥開始の目安です。高温や着果数の増加により草勢は低下してくるため、追肥は液肥で窒素成分量0.5～1kg/10aを１週間間隔(メリット黄など)、または化成肥料で窒素成分量3～4kg/10aを２週間間隔（燐硝安加里S604など）で行うようにしましょう。追肥量は草勢に合わせて調整するようにお願いします。

4. **高温対策**

ハウスの開口部や妻窓は全開にし、気温を下げましょう。遮光資材は、遮光率が低いもの（30～40%）を使用してください。※ダイオシートの使用は避けましょう。

高温により、ホウ素や鉄欠乏症状が見られています。微量要素入りの葉面散布剤（エイトビーなど）を定期的に散布しましょう。

5. **薬剤防除**

害虫では、気温の上昇に伴ってアザミウマ類の被害が発生してきます。ハウスサイドや入口に防虫ネットを張っていても被害が発生する場合があります。花や果実などで発生が見られたら**モスピラン顆粒水溶剤**、または**ディアナＳＣ**などで防除を行ってください。また、粘着版を花房近くに設置し、アザミウマの発生予察や捕殺に努めましょう。

病害では、梅雨期に入ると葉かび病・灰色かび病が発生しやすくなるので**カリグリーン**、または**ダコニール1000**などで予防防除を実施しましょう。農薬は各園芸センターより防除暦が配布されているので、そちらを参照の上ご使用ください。

※農薬登録上、「トマト」と「ミニトマト」は別になりますので、必ず「ミニトマト」の登録農薬を使用してください。
※農薬を使用する場合は必ず容器のラベルを確認してから使用してください。
※農薬を使用する場合は収穫前日数を厳守して使用して下さい。
ご不明な点がありましたら、各園芸センターへお問い合わせください。

★次号の発行は7月３日(予定)です！